

東京学芸大学大学史資料室常設展示

Regular
Exhibition
2026
Summer

東京学芸大学のあゆみ



- 写真上:「3年B組 学級会の様子」(1950年)『昭和25年3月 卒業記念』東京学芸大学東京第二師範学校小金井附属中学校、1950年3月
- 写真下:「おしゃれなデザインの附属幼稚園小金井園舎・正門」(1969年頃)『創立二十年誌寫眞資料』

小金井地区の附属学校・園のあゆみ

【会期】2026年7月7日(火)～9月29日(火)

【時間】[平日] 10:00～16:00

【場所】東京学芸大学附属図書館3階 大学史資料室

【問合せ先】東京学芸大学大学史資料室 [電話] 042-329-7277

[メールアドレス] shiryou@u-gakugei.ac.jp



東京学芸大学
大学史資料室
Office of Tokyo Gakugei Univ. Archives



大学史資料室常設展示によせて

東京学芸大学大学史資料室は、2021年度より附属図書館3階に閲覧・展示スペースを開設して、常設展示を行っています。これは、東京学芸大学大学史資料室が設立から14年目を迎えるにあたり、大学史資料室の機能を一層高めるための取り組みです。

大学史資料室は、本学の運営及び教育研究等に関する重要な資料、また前身校である師範学校時代から現在に至る本学の歴史に関する重要な資料を調査・収集し、その資料の整理、保存及び公開を行うことを任務として出発しました。これは、わが国の教員養成の中核をなしてきた本学の位置を鑑みれば、明治期以来の日本の教員養成の歩んできた歴史の資料を調査・収集し、それを保存・公開していくことと重なります。その意味で、常設展示は、整理・保存してきた資料を継続的かつ安定的に公開する機会であり、その意義は非常に大きいといえます。

常設展示は、年間テーマを設定し、1年間の4～6月、7～9月、10～12月の三期に分けて展示内容を換えて行っています。そしてこれを2年サイクルで回し、1年目のテーマは「師範学校の歴史をふり返る」、2年目は「東京学芸大学のあゆみ」とし、戦前から戦後の本学と教員養成の歴史を辿ります。

2026年度の年間テーマは「東京学芸大学のあゆみ」で、第二期は7月7日から展示を開始します。今回のタイトルは「小金井地区の附属学校・園のあゆみ」です。この展示では、草創期の附属幼稚園小金井園舎、附属小金井小学校、附属小金井中学校に焦点を当てて、これらの学校のあゆみや園児、児童、生徒たちの活動や生活、教育研究活動について、当時の写真や資料から紐解いています。附属小金井小学校に関しては、そのルーツである東京府豊島師範学校附属小学校（後の東京学芸大学附属豊島小学校）、東京第二師範学校女子部附属小学校（後の東京学芸大学附属追分小学校）に関する諸資料も含めて展示をします。展示資料は、附属小金井小学校に関するものとして、豊島・追分・小金井の各附属小学校の『学報』や児童による文集、『一字荘生活日誌』や『至楽荘生活日誌』など林間・臨海学校の記録などです。また、附属小金井中学校に関するものとしては、『生徒会誌』や生徒会新聞『あゆみ』など生徒会活動に関する資料、1950年代の教育実習指導案など、多岐に亘ります。また、附属幼稚園小金井園舎については、1960～70年代の園行事や日常の遊びの様子などを中心に、パネルで展示しています。

2023年、東京学芸大学は1873年に東京府小学教則講習所として設立されてから「創基150周年」を迎えました。常設展示は、東京学芸大学とその前身校、附属学校・園の歴史を振り返るものです。私たちは、過去から未来へと、小さくとも確実な歩みを進めています。ぜひとも、本学学生、卒業生、教職員、そして関係者のみなさんには、常設展示に映し出される東京学芸大学および附属学校・園の歴史と、そこで学んできた園児、児童、生徒、学生の姿に思いをはせていただければと存じます。

2026年7月7日

東京学芸大学大学史資料室長
副学長・附属図書館長

君塚 仁彦

Regular
Exhibition
2026
Spring

東京学芸大学のあゆみ

東京学芸大学大学史資料室常設展示

